

後継者育成事業

奈良伝統工芸後継者育成研修について

奈良伝統工芸の後継者を育成・支援することにより、その技術・技法を後世に伝承することを目的として平成18年から始めました。現在の奈良伝統工芸後継者育成研修(第3期)は平成24年10月、及び平成25年4月から開催しております。

また、第1期の研修者2名(一刀彫・赤膚焼)、第2期の研修者3名(一刀彫・赤膚焼・奈良漆器)については、公募展等で入賞し、相当の成果をあげています。

研修内容

- ・工房主が行う基本的な指導
- ・なら工芸館において行う技術的な自己研修
- ・なら工芸館で開催される各種催しへの参加

研修期間は3年ですが、一年ごとに研修生からの作品の提示を受け、更新するかどうか審査が行われます。

第3期研修者

研修者	研修科目	工房主
池田詩織	奈良漆器	山本哲
篠崎真理子	奈良漆器	山本哲
石橋康宏	奈良一刀彫	神箸勝

奈良漆器

Shinozaki Mariko 篠崎真理子

1985年 生まれ

平成24年 京都伝統工芸大学校
伝統工芸学科 漆科 卒業



自己紹介

京都伝統工芸大学校で課題や作品を作る作業の中で、作業のスピードはとても遅かったのですが、細かさは同窓生から誉めてもらっていました。

私自身も細かい作業・形を整える作業が好きで長時間かかっても苦ではなかったので根気がある方だと思っています。

研修計画(研修期間【3年間】での抱負)

自分と同年代の人達に漆器に対して興味を持つきっかけになるような作品や、普段の生活の中で使ってもらえる物、昔の職人さんが作られた作品の写しなどを制作していけるようになりたいと思っています。

奈良漆器の特色である貝について切り出す時に使用する糸のこぎりなど道具の動かし方や、貝の貼り方など基本からしっかり学んで、他分野の工芸家の人達と一緒に発表をしても存在感のある作品を作れる様になりたいと思っています。

奈良一刀彫

Yasuhiro Ishibashi 石橋 康宏

1982年 生まれ

平成24年 京都伝統工芸大学校 仏像彫刻科 卒業
工房「巧匠堂」にて彫刻に従事

自己紹介

私は幼少の頃より絵を描いたりモノを作ることが大好きで得意でした。そして京都伝統工芸大学校で学んだ仏像彫刻を基に、刃物の使い方、研ぎ方、木の見方など基礎的な事は習得しました。現在は彫刻だけでなく、漆や金箔などを彫刻したものに使ったりしています。



研修計画(研修期間【3年間】での抱負)

私はこの研修期間中の目標として大きく掲げているのは、研修が終了した時点で、確実ではないにしろ一人でやっていけるという自信を持てるようになるという事です。研修期間が終わりその後どうしていか分かりませんが、この制度が何の意味もなさなくなります。そのようなにならないように、この期間を中身の濃い充実した期間にしたいと考えています。

作品については、まずは奈良一刀彫の基本から学び、干支、お雛様、兜、ゆくゆくは能人形など、昔からの技法を徹底的に体に覚え込ませようと思います。それと同時に、私は動物が好きなので、一刀彫の特徴を生かした勢いのある作品も作っていきたくと思っています。発表活動としては、出来る限り作品を多くの人に見てもらいたいので展示会はもちろん、ギャラリー、インターネットを使った媒体などありとあらゆる方面で発表し、奈良一刀彫を奈良県に、日本に、世界に広げていきたいと思っています。現在はインターネットを介すれば簡単に世界中の人々と繋がる事ができるので、一人でも多くの人が奈良一刀彫を見て興味を持って、欲を言えば奈良が好きになってくれる事は無いのですが、あとは、機会があれば小学校、中学校などで一刀彫とはこういうものだと思って体験してもらえれば、どんどんやっていきたいと考えています。なぜかという少しも伝統工芸というものに触れていけば、将来人生の選択・職業の選択に立った時「ああ、昔やった伝統工芸見についてみようかな」と思い出す者が必ず出てくるはずだからです。

これは研修期間とは別になりますが、私のもっと先の夢があります。それは奈良が伝統工芸士の町になり、それを観にたくさんの人達が奈良を訪れ、活気ある元気な県になることです。

奈良漆器

Ikeda Shiori 池田 詩織

1986年 生まれ

平成16年 滋賀県立栗東高等学校美術科 卒業
平成20年 京都造形芸術大学歴史遺産学科 卒業
平成23年 香川県漆芸研究所 修了
第65回滋賀県美術展覧会 入選



自己紹介

大学で文化財保存修復を学んでいる時に漆の美しさに出会い、香川県漆芸研究所で漆器制作を基礎から学びはじめ、3年間で蒔絵、存清、彫漆の加飾方法や乾漆、藍胎などの素地づくりを学びました。その後現在に至るまで自宅で制作を続けています。

研修計画(研修期間【3年間】での抱負)

私は、香川県漆芸研究所で漆器制作の基礎を学んだ後、現在は自宅で制作を続けています。しかし、漆の世界は広く、一人で制作する過程で経験の浅さや自分の感じたものを表現するための技術不足を感じています。そのため、本制度で奈良漆器の特徴である螺鈿の技法をはじめ、下地から改めて奈良の漆芸技術をより細部に至るまで学びたいと考えています。特に、これまで学んでこなかった貝や金属など異質素材の使い方を追求し表現に幅をもたせたいと思っています。そして、漆の多様性に触れ、これまで学んできた香川の方法と比較することで地域の特徴を捉え、裾野を広げより漆の事を知り、制作に使用する材料をはじめ堅牢さや構造などの問題、表現のための適切な方法を選択できるようになりたいと考えています。作品制作に関してこれまでは呼吸するように自然なものづくりを目標に、その時々で心動かされるものを形にしてきました。奈良に住み生活することで、寺社などへ足を運び実際に多くのものを見たり肌で感じたりしながら現在も奈良に伝わる古典を学び、その場で感じたことを形にしていきたいと思っています。そして、知識を深め背景にある伝統や歴史を汲み取り、伝統の技術を踏まえて自分の表現につなげ起源に遡ったものづくりをしていきたいです。現在制作したいと考えているのは、大切なものを入れるための少し特別な箱です。奈良という空間をこめた箱を想像しています。このようにテーマをもって着実に形にして、その過程で技術を身につけ経験を積み重ねて少しでも作品の質を向上させていきたいと考えています。そして、いつか力強くうつくしい見ているだけでも幸せなものをつくりたいです。作品を発表する経験はまだあまりありませんが、滋賀県美術展覧会に応募した際に工芸の視点から漆を一素材として考える良い機会となりました。そのため、今後も公募展への応募を中心に作品を発表していきたいと考えています。また、本制度を通して技術を継承することで、身につけたものを教えられるように次に伝えるための力をつけたいと思っています。